

旧市街に店がある“バイクス・バルセロナ・レンタル”の バイクツアー11AM発3時間22€に参加



2019/5/30 日本郵政街道コミュニティ 案内 図、自転車利用地域向上会議



●自転車は変速機なしの低床型シティサイクル

●ナポリ出身の中年イタリア人女性が英語でガイド

●最低4人以上で催行のツアーだがこの日(2月10日)は小生、スコットランドから来たカプルの3人で実施

●旧市街の人通りの多いところでは押し歩きで通行することが何回もあった

●スペイン征服前の遺跡のみ中へ入って見学

●幹線路には自転車道路が整備されている

バイクス・バルセロナ・レンタル”のバイクツアー



2019/5/30

日本郵政街道コミュニティ 案内 図、自転車利用地域向上会議

●公園内の道や狭い道の自転車通行帯を通る ●カタロニア様式建築の真ん前に自転車を止めてすぐに説明を始める。この随意性が自転車ツアーの醍醐味 ●人気観光ポイントのサグラダ・ファミリア教会にも立ち寄り



2019/5/30

日本郵政街道コミュニティ 案内 図、自転車利用地域向上会議

バイクツアーは“オーバーツーリズム”の解決策

・オーバーツーリズム都市：

-ヴェネチア（自転車通通行禁止、規則違反者は罰金・追放）

-パリ（ダブルデッカーとバスと国際コーチのバリ中心部駐車禁止、代わりに自転車と歩行によるツアーを推奨）

-バルセロナ（市長が空港拡張に反対、クルーズ船寄港数の規制の方針。大気汚染の原因となる車両の市中心部への乗り入れ規制、市中心部のホテル新築規制、レンタサイクル業社：14社・20拠点）

-京都市(レンタサイクル登録制度：31業者・48拠点が登録、“サイクルサイトKYOTO CITY”内にレンタサイクル登録業社一覧ページ)

↓
オーバーツーリズムが問題の都市ではレンタサイクル業社の数が極めて多い

2019/5/30

日本郵政街道コミュニティ 案内 図、自転車利用地域向上会議

まとめ：日本の自転車ツアーとの比較

●都市内観光に特化：ターゲットは観光客、特に子連れと家族。郊外型およびサイクリスト向けのツアーは、バルセロナから北へ鉄道で50分にあるぶどう畑とワイナリー地区で実施されている

●安全な道路：自転車の専用道と通行帯・歩行者道・公園内の道など安全で平坦な道路をつなげたルート

●万人向きのツアー設定：毎日催行する定時ツアーの充実、子供用シートの無償提供、子供用自転車の用意

●英語をはじめ多言語への対応、プライベートツアーと大グループツアーへの対応

●豊富な観光資源と多彩なテーマ別ツアー：名所、芸術家、建築、歴史、五輪、海山、夜間、飲食、バルサ

●観光業社間の協力ネットワーク：ツアーと自転車レンタル・交通＆観光カード・遊覧船・飲食店・入場施設

●E-バイクのレンタルとE-バイク使用ツアーの充実:レンタル14社(20拠点)、ツアー催行17社(24拠点)

●バイクツアーとレンタサイクルの情報入手容易：市の観光案内所(カタロニア広場地下他)と観光ウェブサイト(業者リスト)で自転車観光の情報入手可能

●MaaS：空港バス発着のカタロニア広場に観光案内所・レンタル・ツアー発着・荷物預り・車載鉄道・宿・ケーブルカー・観光施設

●オーバー・ツーリズムの緩和策として推奨されている(京都とバルセロナはレンタサイクル業者が多い)

●北海道では、札幌・小樽・函館の市街地の観光地を巡る市街地および郊外バイクツアーの可能性(札幌の郊外、小樽、函館は坂道が多いので、E-バイクのの活用が最適)

2019/5/30

ご静聴ありがとうございます。

日本郵政街道コミュニティ 案内 図、自転車利用地域向上会議

自転車を活用した地方ブランディング事業のプロデュースについて ～地方発、世界を見越したサイクルツーリズムとは～



株式会社アーチ・ヒーロー北海道
代表取締役社長 高橋 幸博

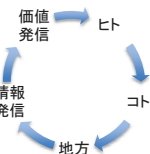
スポーツツーリズムを使った地域プロデューサー
インターナショナルサイクリングガイド

北海道で推進する際のサイクルツーリズム事業のコンセプト

地元の自転車愛好家とサイクリングツアーを通じた理念共有
と人材育成型の事業アレンジ

- ・サイクルツーリズムの強みである「繋がり作り」を生かす。
- ・今までにない地方の様々な魅力を発信。海外スタイルで！
- ・内外のサイクリストと交流させる仕組みと稼ぐ仕組みは別。
- ・地方の素晴らしい雄大な景色や豊かな食文化をベースに。
- ・「**自転車とライフスタイルの時間**」を共有することを目的とする。

→ 自転車で組めないモノ、コトはありません。
自転車を活用して積極的に5つのポイントを実施します



1. 地元の人に着目します(地元クラブ、地元のプロジェクトとコラボ)
2. コトを作ります(商業施設、インフラとコラボ)
3. 地方で実施します(国、北海道、地方自治体、団体、事業者とコラボ)
4. 情報を発信します(世界、関東、関西、事業者、地域管内へ発信)
5. 価値を共有します(食、農業、ライフスタイル、暮らし、商品ブランド)

北海道サイクルツーリズム事業デザインの7つのポイント

1. 地元愛好家が企画
地元のサイクリング愛好家で作り上げるサイクリングツアー。小さな成功体験と参加意欲作り。
2. 内外への発信
地方の内外に向けてライフスタイル、コトづくり、ブランドをサイクリングを通じて存在、情報発信。
3. たくさんの人が関わる(場づくり、人づくり)
地元サイクリング愛好家、サイクリングクラブや団体、企業、自治体、インフラなどを巻き込んだ価値の共有の場としてサイクリングツアーを実施。地域プロデューサーを活用する。
4. 地方のブランディング
サイクリングを通じた地方のブランド化世界、アジア、国内、北海道内に行う。
DMO、地域商社との事業連携作り、事業の共有、相互支援のネットワーク作りを目指す。
5. 世界のマーケットのゲートである「NISEKO」との連携
海外スキー客、ラグジュアリーツーリズム、国際会議、スポーツイベントと関係作りを担うNISEKOとのB to Bの関係づくり、プロジェクトを起こす。
6. 交通インフラとの事業共有
2次交通としての自転車の特性を活かし、自転車走行空間や交通インフラと事業連携。
7. 自転車活法推進計画、自転車条例、自転車活用総合計画のビジョン共有
一般社団法人北海道サイクルツーリズム推進協会(HCTA)との繋がりを活かし、北海道自転車条例、自転車活用法を推進する行政窓口との連携を演出。国、北海道、地方自治体、自転車活動団体、地方活動団体とビジョン共有をする。

「サイクルツーリズム」を使った 地方のブランディングの為の事業の重要性

- ・「自転車」使って付加価値と有意義な時間を演出→カフェ、ホテル等
- ・役所は座組作り、ブランディング(DMO)に集中し、サイクルツーリズムマネジメントは民間事業者を使って育てるべき
- ・「サイクルツーリズム」では民間の起業家、新規事業創出を支援すべき
- ・地方では「サイクルツーリズム」を主役にせず、地域産業をメインとして「自転車」をツール、ディステーションと足し算、掛け算の行程、時間、質、ブランド化を狙うこと



◆高橋 幸博 / 株式会社アーチ・ヒーロー北海道 代表取締役
サイクリングツアー・スキーツアー・コンシェルジュ

北海道ニセコ地区(倶知安町)在住。北海道美幌市(びはい)出身

- ・北海道サイクルツーリズム推進協会 代表理事
- ・インバウンド、スポーツツーリズムを使った地域プロデューサー
- ・CSIA(カナダ)プロスキーコーチ、フリースタイルスキーコーチ
- ・インターナショナルサイクリングガイド(台湾、タイ、オーストラリア)

大学では都市計画、道路計画を専攻。地元美幌市役所に土木技術職として従事。退職後、民間に転職。海外20か国で主に都市、農村デザイン、スキーリゾートを研鑽。

2002年、ニセコ地区のスキー場がオーストラリア資本により買収されたのを機に倶知安へ移住。夏はカヌーガイド、冬は英語でスキーを教えるという夏冬の季節に応じたガイドングを研鑽。

海外で行われたインバウンドスキープロモーションでは北海道の代表としてセールス。オーストラリア資本のスキーツアーエージェンティにて、オーストラリア、カナダでのマネージメントに携わり、日本人立ち上げに関わる。その後、自分のブランドを立ち上げ、法人化。スキーと自転車を使ったツアー・コンシェルジュ事業展開。

インバウンド、観光コンテンツづくり、受け入れ商品づくりの知見をいかして、観光庁VJ地方連携事業、経産省のちいきのじまんづくりプロジェクトの北海道担当プロデューサーとして地域振興、観光商品づくりに関わる。北海道のサイクルガイド等と北海道サイクルツーリズム推進協会を設立。難しい産官学民としての事業プロデュース、啓蒙、交流事業を推進中。



北海道でのガイドング(スキー、サイクリング)

元土木技術職地方公務員
設計コンサル →
インバウンドコンシェルジュ

世界の観光地を巡る
スキーリゾート、美術館
ライフスタイルを研究

ニセコの海外スキー客の対応
サイクルツーリズムでの
ブランディング

新たな事業プラットフォームの
プロデュース

●なぜサイクルツーリズムが注目されているのか？

地方の魅力を発信する為にはわかりやすい
観光メニューが必要

着地観光は地方の自然、産業、歴史を繋ぐストーリー
サイクリングは様々な意味で地方に合っている

地方創生+メガスポーツイベント+インバウンド需要拡大
夏冬稼ぐ観光事業+地域商社+ブランド発信(DMO・DMC)

観光ブランド価値=観光事業者売上+ブランド価値
→観光+地域の売上向上=地方の価値向上

NISEKOのスキー(冬) 顧客は一人50万円/(7日滞在) 出費

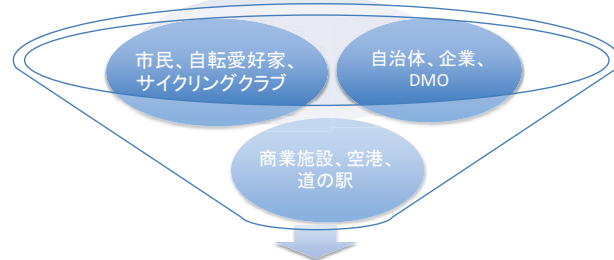
1年に4回滞在(40日滞在) 経済効果大!

サイクリング(夏) 顧客は4日で一人16万の地域出費

<当社顧客データから>

既存の事業との連携で、地方の魅力発信を加速させる。

サイクルツーリズムで価値の再認識と、既存の事業との連携を促進。



地域住民と既存の事業が
共有できるプロジェクトにすること

<サイクリングツアー後の意見交換会から>

- *参加者より出た意見*
- ・トカプチ400のコースの可能性、走行空間整備についてよく確認できた(帯広開発建設部)
- ・空港からの着地ツアーの大きな可能性を認識
- ・藤丸百貨店の活用。サイクルツーリズムとの相性の良さを認識した(藤丸百貨店)
- ・日本代表MTB選手山本幸平さん(幕別出身)より初めてサイクリングツアーのガイドとして走った。交流や地域の魅力発信を行う意味を認識した。帯広でのマウンテンバイクの国際大会を開催してはどうか、とあった。→地方での国際ツーリズムの理念作り



- *サイクリングツアー後に意見交換会を開催して*
- ・まちづくりへのつながりを意識する為に体験の後に意見交換場を設けることは非常に有意義であった
- ・2日間一緒にサイクリングをしたことで、参加者同士の親交が深まり、その後の意見交換では理解が深まり、話しやすくなった
- ・地元サイクリングクラブのメンバーに、是非次回登壇させたい

まちづくりの理念共有、プロセスと主体的に捉えさせ、能動的にまちづくりを一緒に行うきっかけ機運を上げることは事業継続で重要



サイクリングガイド人材づくりは参加の意味作りから

地域のサイクリストを対象に、サイクリングガイドの基礎からメカニックに至るまでの講習を行った。ポイントは学習の動機づけ、参加する意味の理解、市民ブライドを発揮する場と認識すること。
(全10回・2017年7月～9月)



国内外の参加者に響く地域資源、ツアーの見せ方

- ・ 地域の見せるポイントをしっかり**着地型**として戦略に据える。
- ・ 最初から2～5泊の行程を考える。**隣の地域と役割分担**する。
- ・ 空港から立寄り先、宿泊、雨天時のルート、小さな受入先、大きな受入が可能な施設の役割が異なる。
- ・ ハブニング対応のために、**プランB,C,D(コンテンツ)**が重要。
- ・ 四季と閑散期の企画、セールスもPRできるようにしたい。
- ・ **リピーター**を囲う戦略を練る。
- ・ **地域産業に貢献**する意義を確立する。
- ・ 着地ツアーの**トライアル**を何度も実施。
- ・ **全てはヒト作り、事業承継に繋がる**



スモールツーリズムとインバウンドが作ったニセコ小経済
今後どうなるか？→ この現象は他の地方でも起きるか？

<インバウンドスポーツ事業と投資事業の活発化により>

1. 土地の価格が上昇(土地価格上昇率高水準を10数年キープ)
 2. 外国人雇用が(冬季) **4000人**に増加(人口の20%)
→ ニセコ地区人口 **20,000人**
 3. ニセコの人口が増加した(ストップ人口減少。30代、40代の世帯増加)
 - ・ 大きなホテルのない地方では入り込み数アップは目標にならない
 - ・ 循環経済、土地の価値づくり、新事業誘致、雇用数アップ、人口アップを目指す
 - ・ 国内、インバウンドがまわる状況を作り、地方の事業化への投資、事業拡大を後押しすることが特に有効→客単価、価値を下げない**ブランディング事業が必須**
 - ・ 観光資源とコトにより価値を上げる事業を継続する→グローバル人材育成レベル
- 2019年、2020年 NISEKOにはリッツ・カールトン、パークハイアット、シャングリラ、アマンの4つの5スターホテルがオープンする。(コンドミニアムから5スターへ、複合商業施設、総合商社の確立)
- 2019年10月25日、26日 G20 観光大臣会議を北海道倶知安町(NISEKO地区)で開催
→新たな課題と新たな価値が生まれている。(価値構造と受け入れ課題解決は表裏一体)

プロデューサーとプロガイドの重要性

- ・ 地域内サイクリングルート、サイクルイベント、トレール作りが盛んになっているが、**ボランティアレベル**でも受入と知見の共有を行うべき。
 - ・ 元々ライフスタイルをともにする方々と地域ビジネス、DMO、DMC、自治体との相互関係は必要。皆が事業プレイヤーとして、**場作り**が重要になる。
 - ・ 地域観光ビジネスにはプロガイドを作る動きが必要
 - ・ 地域内のイベント、市民のおもてなし向上を図るには、愛好家をボランティアガイドへ変身させ、自治体、DMOレベルで育成をする。場を作ることで情報やアイデア、ライフスタイルが共有される。
- 場があると市民は活動の見返りは顧客の対応と反応で満足する。
- ・ そこでイベント、コンセプト、事業内容、人材作り、地元での役割分担などの仕組み作りをする(**プロデューサー**)と**継続性のあるセントラルマネジメント**が重要となる。

官民との体制作りの重要性

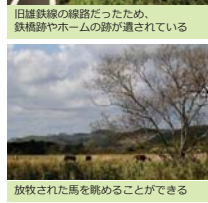
- ・ 基本的な目的、コンセプト、セグメント、**主体者の違いを行政は意識したプロジェクトにすべきである。**
- ・ DMO、DMC、民間、愛好家のブランド発信の整理、進捗確認すべき
- ・ まちづくり事業が主体の場合、市民レベルの活動が国際交流、域外交流に繋がる。→人材交流やコンセプトを同じくもつ地域との交流窓口を維持し、民間レベルや交流団体との**横展開を目指し、事業継続、成果を共有**
- ・ 自治体はオールラウンダーであり、黒子に徹する為の準備を。
- ・ 主役は儲けるモデル、雇用を作る事業者。
- ・ 市民愛好家による活動
- ・ SDGsの理念は必ず盛り込んでいくべき(2030年までの課題解決)





釧路阿寒自転車道とその周辺について

- 釧路阿寒自転車道（大規模自転車道）
- ・通称「湿原の夢ロード」
 - ・釧路市昭和～釧路湿原～釧路市動物園～阿寒市街を通る全長25km自転車道
 - ・自転車道周辺に魅力的な地域資源が多数あるエリア



くしろロコサイクルプロジェクトとは？

くしろロコサイクルプロジェクトについて

- ・平成30年4月に発足した地域団体（任意団体）。
- ・サイクリングを活用した「地域活性化」「地域交流の促進」が目的。
- ・活動の主なフィールドは釧路阿寒自転車道とその周辺地域。
- ・地域住民・団体・企業・行政が連携し、くしろ地域のサイクル受け入れ環境の向上（おもてなし環境づくり）を行う。
- ・初級者～中級者～上級者まで、様々なサイクリスト（地域住民、観光客）がサイクリングを楽しめる地域を目指し活動する。

組織体制

- ＜参加企業・団体＞ 11団体
株式会社マルカツ吉田新聞店／サイクルガレージPAZ／ゲストハウスコケッコ／道の駅「阿寒丹頂の里」／釧路市農山漁村交流センター山花温泉リフレ／有限会社泰都／釧路空港ビル（株）／（有）阿寒観光ハイヤー／（一社）釧路観光コンベンション協会／（一社）シーニックバイウェイ支援センター／釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
- ＜オブザーバー＞ 3機関
・北海道開発局釧路開発建設部道路計画課
・北海道釧路総合振興局（釧路建設管理部・地域創生部）
・釧路市阿寒町行政センター地域振興課



H31.1に実施した会議の様子

官民協働による取り組みを実施！

昨年度（H30年度）の取り組み

（一財）北海道開発協会「地域活性化活動助成」による活動を実施

1. 釧路阿寒自転車道の現状の課題整理

- ① 釧路阿寒自転車道のハード点検調査
…路面やサイン、工作物等の現状を把握し課題・改善点を抽出
- ② 既存ルートとの連結モデルコース検討
…既存のサイクリングルートや釧路駅、釧路空港から自転車道までのモデルコースを検討
- ③ 釧路湿原道路を活用したサイクリングコース・プラン検討
…釧路湿原や北斗遺跡等周辺観光地を含むサイクリングコースの検討
- ④ 阿寒ロイヤルバレイMTBとの連携体制づくり
…自転車道沿いにあるマウンテンバイクコースとの連携にむけた検討



ハード課題箇所マップ



釧路湿原道路を活用したサイクリングコースプラン検討の様子



＜北斗遺跡＞

昨年度（H30年度）の取り組み

（一財）北海道開発協会「地域活性化活動助成」による活動を実施

2. サイクリングルートの活用検討（広報PR・イベント）

- ① 広報媒体の作成（サイクリングマップ・ホームページ開設）
…自転車道および周辺地域の地域情報を情報発信
- ② 地域ピックアップ調査を実施し、道外サイクリスト目線での魅力を整理
- ③ サイクル交流イベントの開催
…釧路阿寒自転車道とその周辺地域を活用したライドイベントの開催
- ④ 今年度（R1年度）は初心者向けのライドイベントを実施した（8/3実施済）



制作したサイクリングマップ



H30.8.11に実施したライドイベントのチラシ



エイドで提供した地元スイーツ「糖漬プリン」

昨年度（H30年度）の取り組み

（一財）北海道開発協会「地域活性化活動助成」による活動を実施

3. 公共交通を併用した「ワンウェイ・サイクリング環境整備実施」

- ワンウェイ・サイクリング（自転車乗り捨てレンタサイクル）とは
- ・釧路市内の貸出拠点で借りた自転車を返却拠点まで片道利用できる仕組み。
 - ・貸出拠点…（釧路市中心部）サイクルガレージPAZ
 - ・返却拠点…（山花地区）山花温泉リフレ、（阿寒地区）道の駅「赤いバレー」
 - ・自転車返却後は公共バスを利用し次の目的地（空港や阿寒湖温泉等）へ向かうことができる。
 - ・昨年度（H30年度）はプレ調査を実施し、今年度（R1年度）より本格始動。



H30年度チラシ



R1年度チラシ



チラシ裏面（バス時刻表）

昨年度（H30年度）の取り組み

（一財）北海道開発協会「地域活性化活動助成」による活動を実施

4. 検討会の実施

- ・3回の検討会やワークショップを実施し、「くしろ地域のサイクル環境づくりの方向性」を官民協働でまとめた。
- ・自転車道の道路管理者（釧路建設管理部）と連携しハード面の補修や改善について協議を行っている。

検討会で抽出された課題と方向性

- ハード面・課題・方向性
- ① 一般道から自転車道の誘導…車道からのサイン誘導の改善、デザイン統一
 - ② 舗装・維持管理の向上…路面の舗装の改善、維持管理の向上
 - ③ 交差点案内の不統一…交差点案内、標識デザインの統一
 - ④ 通行安全性の向上…危険な工作物の撤去
 - ⑤ 休憩所の景観の向上…除草やゴミ拾いによる景観の向上など
 - ⑥ 官民共同の自転車道維持管理体制の構築…道路協力団体制度等の活用
 - ⑦ 歩道の道路用途変更によるサイクル環境の向上…自歩道の拡大



意見交換の様子

- ソフト面・課題・方向性
- ① 鉄道遺構の情報発信…旧釧路線の歴史の活用
 - ② 自転車道での誘導…案内の強化…北斗駐車場の自転車道の情報発信
 - ③ 自転車道を活用したモデルコース設定…自転車道、釧路空港から誘導路設定
 - ④ サイクリストへのおもてなしの向上…ラックや工具貸出店舗、協力施設の拡大
 - ⑤ イベントによる交流促進…自転車道の情報発信…地域経済への波及
 - ⑥ 自転車道周辺、観光駐車場のサイクル拠点としての活用…地元商店会等との連携



ワークショップでの意見（一部）

今後の方向性

R1年度市補助金（輝くまちづくり交付金）の取り組み 関西からの「若者旅」応援体験モニター事業

- ・釧路空港に就航するLCC（peach航空便）の利用促進と若年層のニーズ開拓を目指し、モニターツアーを実施。
- ・インフルエンサーを招き、動画制作、インタビュー記事を制作し広報PR。

地域内連携を促進させ、すそ野を広げた息の長い活動へ

① 地元企業との連携促進

- ・昨年4月からスタートした事業にも関わらず、地元企業や金融機関、マスコミ等から興味を示していただいている。
- ・地元企業と連携した地域経済に貢献できる取り組みを進める。

② ロコサイクリストの育成（地域ガイド育成）

- ・地元サイクリストから「参加したい」「地域のために動きたい」という声が増え始めている。
- ・地元サイクリスト自らが地域を案内する「ロコサイクリストの育成」を行い、イベントを実施したい。

地域住民目線で、歴史・自然・産業を伝えたい！

ライドメインのイベントではなく、地域交流に主体をおいた活動でくしろの魅力を伝えたい！



目指すべき方向性
静岡県遠州地域「ゆるゆる遠州ガイドライド」
地元ロコサイクリストによるガイドイベントを年2回開催。今年で10年目。



ご清聴ありがとうございました。

<https://www.kushiro-lococycle.com/>



○交流型のサイクルイベント（十勝ゆるゆる自転車旅）



北海道のサイクルツーリズム推進

国土交通省北海道開発局道路計画課
道路調査官 栗山 健作

北海道のサイクルツーリズムの推進に向けたこれまでの取り組み 国土交通省

○「北海道総合開発計画(平成28年3月閣議決定)」では、北海道において、**アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源**を活かしながら「**世界水準の観光地**」を目指しており、**サイクルツーリズム**等の振興等により、広域的な観光周遊ルートの形成を促進するとともに、施策の推進にあたっては、産学官民連携による「プラットフォーム」を形成することとされている。

○平成29年5月には「**自転車活用推進法**」が施行

個性的な景観や食など、北海道の魅力を活かしたサイクルツーリズムを推進するため、下記の検討が必要

- 受入環境を充実させるための方策
- 自転車走行環境を改善するための方策
- 情報提供・サイクリストとのコミュニケーションの方策
- 持続的に取組を進めるための体制や役割分担 等

「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」を設立、検討実施(平成29年2月～)

委員長：北海道大学大学院 工学研究院 萩原亨教授
委員：東京工業大学 副学長 環境・社会工学院 屋井鉄雄教授
北見工業大学 地域未来デザイン工学科 高橋清教授
NPO法人日本風景街道コミュニティ 宮内忍氏（元サイクルスポーツ編集長）
シーニックバイウェイ支援センター 原文宏氏
気象防災キャスター 菅井貴子氏

(事務局:北海道開発局・北海道)

北海道のサイクルツーリズムの推進に向けたモデルルート試行(H29~30) 国土交通省

世界有数の資源を有する北海道において、世界最高水準のサイクリング環境を構築

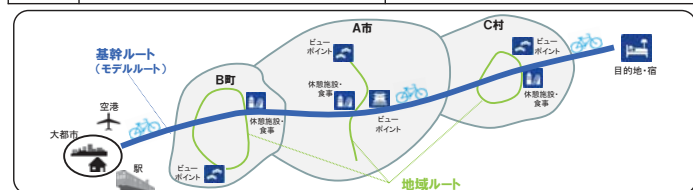
■ 下記の具体的な体制や内容について、【モデルルート試行】により検討実施(H29～30)



モデルルート設定の考え方

○モデルルートは、各ルートの骨格となる「基幹ルート」を設定

	基幹ルート(モデルルート)	地域ルート
特徴	市町村をまたぐような骨格となるサイクルルート	(基幹ルート周辺)の地域の短距離のサイクルルート
コンセプト	空港や駅、大都市と目的地を結び、安全・安心に移動できる(案内や休憩等施設が整っている)	基幹ルートから離れているビューポイントなど、隠れた地域資産を楽しむ



○試行を行う箇所(モデルルート)は、基幹ルートや試行の内容を踏まえ、下記を満たすように設定
(道内全自治体にヒアリングを実施し、その結果を踏まえて設定)

- ① モデルルート試行への協力を得られる地域の活動主体が存在
(受入環境の充実や情報発信のためのデータ収集、アンケートの実施等)
② 市町村をまたぐような、骨格となるルート(基幹ルート)であること

北海道に適したアクティビティ～サイクリング～

- サイクリングは、自然や景観を体験しながら、広大な地域を周遊できるアクティビティ
- 北海道の豊かな自然環境や雄大な自然景観、農村景観、食、冷涼な気候、広域分散型の地域構造は、サイクリングでの観光に最適で、我が国を先導するポテンシャル
- 北海道総合開発計画（平成28年3月閣議決定）や自転車活用推進計画（平成30年6月閣議決定）において、サイクルツーリズム推進に取り組むこととされた

【北海道の特長を活かしたサイクリング】



2つのキーワード

世界標準 ➡ すべてのモデルルートが満たすべきもの

(世界のサイクリストが安全かつ安心してサイクリングできる走行・受入環境)

- ・ルートの案内看板が設置されている
- ・安全に走行できるための空間が確保されている
- ・休憩施設、トイレが一定間隔で存在し、サイクルラックや工具類が設置されている
- ・ルートの情報が提供されている（ITの活用） 等

世界最高水準（北海道のポテンシャル活用） ➡ **地域の特性を活かして磨くもの**

- 豊かな自然環境や雄大な景観、食、冷涼な気候という、我が国を先導する北海道の優位性を活かした体験が可能
- “東北の地”を体験、ファームレストラン、他のアクティビティ（カヌー等）との複合
- サイクリストが満足する“サイクリストウェルカム”な地域が形成されている（ホスピタリティ）
- 「ウェルカム施設の目印（フラッグ）、農山漁村（生産空間）でも持続可能な休養・宿泊環境（農泊や民泊等）」等
- ここ（北海道・各ルート）でしか味わえないことを世界にアピール
- 海外からの招待ツアー、サイクルイベント（見本市）でのPR 等

試行を開始したモデルルート



モデルルートにおける取組事例①

○立ち寄り施設でのサイクルラック等の設置

道の駅や空港など、立ち寄り施設へサイクルラック・修理工具等を設置するなど、自転車利用者を支援。



【緊急サポート体制の充実】



○ツアーイベントの実施

モデルルートを使ったツアーを実施し、道内外から多くの参加者が集まる。海外からの参加もあり。



○多様なモビリティの活用

自転車だけでなく、バスや鉄道など様々な交通手段を活用した観光ルートの確立に向け試行を実施

【バス車内への自転車持ち込み】



※きた北海道ルート

【モニターツアー】

自転車やカヌーなどで周遊する新しい旅行の可能性を探る取り組み



※きた北海道ルート

【空港を玄関口として活用】



※札幌・厚岸・釧路空港ルート
(釧路たんぽう空港)

※きた北海道ルート
(旭川空港)

○河川を利用したルート設定

＜河川堤防を利用したサイクリングルート＞



※石狩川流域圏ルート(石狩川)

※きた北海道ルート(天塩川)

＜ミズベリングイベントと連携し、地域の魅力を発信＞



石狩川沿いをマウンテンバイク・カヌーで移動し、流域の魅力を発信

CHETO RIVER CITY PROJECT

8

○案内看板の設置試行

サイクリストが迷わず安心して走行できるよう、案内看板をサイクリストに見やすい場所に設置し、視認性やわかりやすさ等を検証



案内看板設置状況(地域の方々と共に設置した例(中川町))

○情報提供・サイクリストとのコミュニケーション

モデルルートの地図や高低差、ビューポイントや休憩施設などのスポット情報を提供するとともに、サイクリストからの評価・意見を投稿いただけるコミュニケーションサイトを開設



地図・高低差の表示/
現在位置の表示

評価・意見の投稿



9

これから進める北海道のサイクルツーリズム推進方針(案)



10